



◎令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月18日に3年生対象に実施された全国学力学習状況調査の結果が届きました。学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題が出題され、各大問において「主体的・対話的・深い学び」の視点からの授業改善のメッセージが発信されています。文部科学省・国立教育政策研究所から報告された結果の概況から国語と数学の各大問を紹介します。

中学校国語 大問1(4)

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

フィルターバブル現象
自分の好み情報だけに囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

「フィルターバブル現象」に関する生徒たちの話し合いを受け、自分ならどのような考えを述べるかを記述する。

条件① **フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからの本を選ぶたいか**を具体的に書くこと。

条件② **話し合いの誰の発言と結びつけるのか**が分かるように書くこと。

山岡さん
皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん
私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、興味している書籍に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

(以下省略)

正答例	今井さんが言うように、 フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出会いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたい と思います。
誤答例	山岡さんが話してくれた、 様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用して本を選んでみたい と思いました。

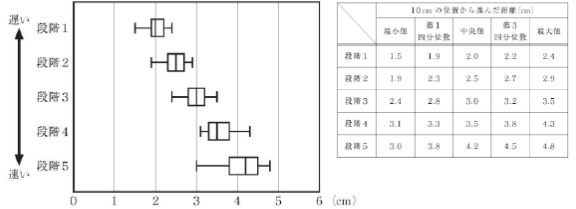
話し合いの目的も踏まえ、発言においてフィルターバブル現象の特徴について取り上げるべきだが、取り上げることができず、条件①を満たせなかった生徒がいた(線部分)。

中学校数学 大問7(2)

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

車型ロボットの進んだ距離について、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明する。

【進んだ距離の分布】



正答例	速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。
誤答例	・段階1と段階5を比べると約2倍の差がある。 ・段階が遅いと箱ひげ図は3cmよりも後ろにあるが、段階が遅いと前にかたまっている。

複数の箱ひげ図を比較して、データの分布の傾向について判断した理由を説明することに課題がある生徒がいた。

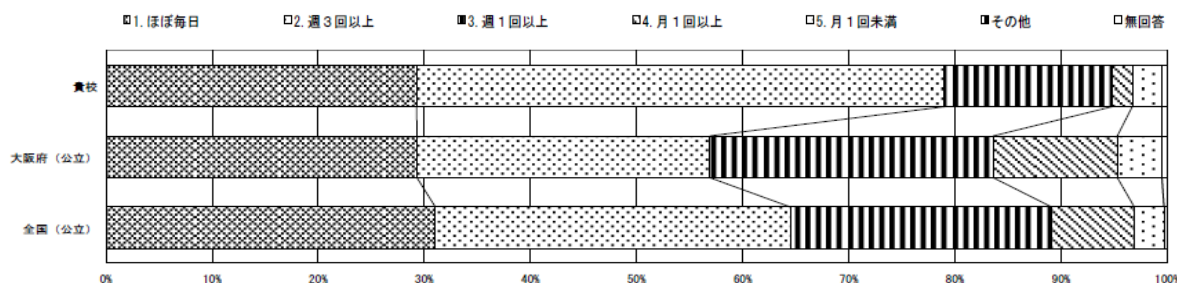
国語の「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる」という力は授業や学校生活で、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組む機会を多く持つことで身につきます。数学の「箱ひげ図」の問題は最近よく出題される問題で、「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」という力の育成にも、ペアや班で自分の考えを説明する協働学習の時間が大切です。これからの社会を生きる子供たちに必要な資質・能力を育成するためには、ICTも最大限活用しながら、多様な子供たち一人一人の特性や学習の進度等に応じた「個別最適な学び」と、子供たち同士が互いの良い点や可能性を生かしながら一緒に学ぶ「協働的な学び」の一体的な充実が求められています。桜台中学校では、全ての学年・教科で協働学習を取り入れ、自分の考えをアウトプットする機会を授業の中で作るように授業改善に取り組んでいます。

3年生の結果では、国語は15問中9問が無解答率2%前後で粘り強くあきらめずに問題に取り組

んでいたことが伺えます。しかし前述の大問1四と他の「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかみる」問題は無解答率が20%を超えたのが課題です。数学は「簡単な場合について、確率を求める」問題と「与えられたデータから最頻値を求める」問題はどちらも正答率が75%前後で府・全国を上回りました。ただし、前述の大問7(2)の他に「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」問題と「筋道を立てて考え、証明する」問題は無解答率が45%前後と課題が大きな結果となっています。

ICTの活用については、生徒質問(27)「1,2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」の回答結果は下記の通り、府・全国を大きく上回っています。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	29.3	49.8	15.8	1.9	2.8						0.0	0.5
大阪府(公立)	29.3	27.6	26.7	11.7	4.2						0.0	0.5
全国(公立)	31.0	33.4	24.6	7.8	2.8						0.0	0.3



約9割の生徒が次のようなICT機器活用の効力感を感じています。

- ① 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる
- ② 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる
- ③ 友達と考えを共有したり比べたりしやすくする

今後、授業では発表等アウトプットの場面でICTの活用頻度を増やし、課題解決の学習活動に取り組んでいく予定です。

◎「個別最適な学び」に活用 AIドリル「Monoxer(モノグサ)」の導入

2学期の始業式に株式会社「Monoxer」から平山さんに来ていただき、みなさんのタブレットに入るAIドリルのアプリについて紹介していただきました。5教科の基礎的な語彙や単語などの定着を促すソフトです。効率的に暗記ができるので、隙間の時間を使って、基礎学力を伸ばしてください。

◎地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業(9~12月)

令和6年度スポーツ庁委託事業として、休日の運動部活動を学校から切り離し、教育委員会(スポーツ振興課)、地域におけるスポーツ関係団体をはじめとする関係者の連携・協力により地域スポーツクラブ活動を実施します。対象部活動は陸上部・サッカー部・芸能部・卓球部の4つで9月~12月までの土曜日に3時間程度実施する予定です。委託先は陸上部がNPO法人スポーツクラブダイヤモンドで、それ以外はNPO法人FC岸和田です。「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という考えのもと、生徒が望ましい成長ができるように、地域で持続可能な一体的な環境を整備していけるよう取り組みます。ご理解・ご協力よろしくお願いします。

◎裏面に通級担当の先生からの「一言コラム」を掲載しています。

一言コラム

ダイバーシティ

昨今、ダイバーシティ（多様性）という言葉をよく耳にするようになった。よく使われるということは「多様性」がいろいろな意味に解釈されるということだ。言葉が独り歩きしていることも懸念される。

金子みすゞの「みんな違ってみんないい」という詩がある。個性を大切にしたい素晴らしい詩だと思う。ただ以前、次の文章に強く共感を覚えたことを思い出した。

『子どもの多くは「みんなと同じがいい」と思っています。－(中略)－ みんなと同じようになるのが大前提で、多様性はその上に乗っかっているもの。最近はその勘違いをして、「多様性」という言葉を簡単に使いすぎているように思います。』

(子どもが心配 著：養老孟司より)

人が言葉を理解するとき、自分というフィルターを通してその言葉を理解する。「わかる」というのはそういうものだという事、伝えた側と受け取った側に差異があるものだととらえていけば避けられる衝突もあるのではないだろうか。

本来、人は一人ひとり異なるものである。社会の中で生きていくために相手と協調して生きていく。だとすれば大切なのは目の前の人と「繋がる」ことではないか。そしてお互いを認めることができたなら多様性なんて言葉は必要なくなる。

ダイバーシティという言葉が使われなくなるくらい、一人一人が繋がりを大切に、お互いを認め合える世の中になればいいと思うのは、逆に傲慢であろうか。

通級指導教室より